

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

1-1
基本事項

1-2
その他

§ 1 一般事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図面に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5 (2009)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

2-1
鉄筋の表示記号

2-2
鉄筋の折り曲げ

2-3
鉄筋の定着及び重ね継手の長さ
「JASS5 (2009)」

§ 2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	●	×	◇	●	○	⊗	⊙	○	◆	⊗	
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

・フックのない場合

・フックのある場合

・本数に差がある場合

・機械式継手表示

・溶接継手表示
(ガス圧接、突合せ溶接)

柱・梁・基礎の主筋及びその他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径 (D)	
180°		余長 4 d 以上	柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋	SD295 SD345	D16以下 D19～D41	3d以上 4d以上
135°		余長 6 d 以上	あばら筋 スラブ筋 壁筋	SD390 SD490	D41以下 D25以下 D219～D41	5d以上 5d以上 6d以上
90°		余長 8 d 以上				

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)	重ね継手の長さ	定着の長さ			
			一般		小梁・床スラブ	
		上段 直線 L1 下段 フック付 L1h	上段 直線 L2 下段 フック付 L2h, La	上端筋 フック付 Lb	下端筋 L3, L3h	
SD295 (SD345) ○はSD345を示す	18	45d (50d) 35d	40d 30d, 20d	15d	L3=20d L3h=10d 床スラブの場合 L3=10d かつ 150以上	
	21	40d (45d) 30d	35d 25d, 15 (20) d	(20d)		
	24～27	35d (40d) 25d (30d)	30d (35d) 20d (25d), 15 (20) d			
	30～36	35d 25d	30d 25d, 15d			
	39～45	30d (35d) 20d (25d)	25d (30d), 15d			
	48～60	30d 20d	25d 15d, 15d			
SD390 (SD490) (-)は適用外	21	50d (-) 35d (-)	40d (-) 30d (-), 20d (-)	20d (-)	SD490は適用外	
	24～27	45d (55d) 35d (45d)	40d (45d) 30d (35d), 20 (25) d			
	30～36	40d (50d) 30d (35d)	35d (40d) 25d (30d), 20 (25) d	15d (-)		
	39～45	40d (45d) 30d (35d)	35d (40d) 25d (30d), 20 (25) d			
	48～60	35d (40d) 25d (30d)	30d (35d) 20d (25d), 15 (20) d			

一般定着の直線L2またはフック付のL2h、La、Lbの図

1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、またフック付のL2hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2-4
継手一般

2-5
鉄筋のフック

2-6
鉄筋のあき

2-7
かぶり厚さ

3 構造特記仕様書2-2で政令第73条とした場合、主筋等の重ね長さと柱に取り付け梁の定着長さは上表L1・L2かつ40d（軽量コンクリートを使用する場合は50d）とする。
4. 構造特記仕様書2-2でJASS5 (2009)、RC標準2010とした場合、主筋等の継手長さと柱に取り付け梁の定着長さは設計者の指示による。
参考値として上表JASS5 (2009)にL1・L2を示す。

1. 溶接継手

2. 機械式継手

3. 重ね継手（下記のいずれかとする。壁、スラブ筋でD16以下の場合を除く）

4. D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。
(溶接、機械式継手等による)

5. 溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突合せ溶接の場合は1サイズまでとする。

6. 突合せ溶接継手及び機械継手の場合はメーカー仕様による。

下記の1.～7.に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。
1. あばら筋及び帯筋 2. 煙突の鉄筋
3. 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部分の鉄筋（下図参照）

4. 単純梁の下端筋、片持ちスラブの上端筋の先端
5. 最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋
6. 杭基礎の基礎筋（偏心基礎及び杭2本打以上の場合）
7. 鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

・鉄筋のあきaは、原則として下記による。
呼び名の数値dの1.5倍以上
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上 かつ25以上

・鉄筋径が異なる場合は大きい方による、機械接合はカップラー径。
・二段筋のあきは1.5dとする。

鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

部 位	かぶり厚さ (mm)	
	仕上がりあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋 内 30 (20) 屋 外 30 (20)
	柱 梁 耐力壁	屋 内 40 (30) 屋 外 40 (30) 50 (40) *1 50 (40) *1
	擁 壁	50 (40) *1 50 (40) *1
	土に接する部分	柱・梁・床スラブ・耐力壁 50 (40) *2 基 礎 ・ 擁 壁 70 (60) *2

1. () 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 「仕上がりあり」とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上のある場合とする。
※1 品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で10減の値とすることができる。
4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに10mm加算する。
5. 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

3-1
鉄筋の継手

3-2
主筋の定着

3-3
帯副帯筋

3-4
補助筋

3-5
柱のコンファインド補強

4-1
主筋の継手

4-2
主筋の定着及び余長

外 柱

中 柱

4-3
あばら筋副あばら筋

補強する柱は設計図による。（柱頭、柱脚柱成の範囲を補強する。）

a スパイラル帯筋φ60～75（有効間隔50程度）
b 溶接閉鎖型帯筋φ60～75（有効間隔50程度）

§ 4 梁

・印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は、柱面より500以上はなすこと。
・定着形状を下記以外とする場合は設計図による。

3/4D以上かつLa Lo/4 D'以上 2段筋 つり筋2-D13(束ね筋)以上とする。
D'以上 a2 a1/a2 ≤ 1/6 最上階
3/4D以上かつLa Lo/4 D'以上 a2 a1/a2 > 1/6 一般階
外柱の下端筋は上向きの方が望ましい 3/4D以上かつLa 全長L2
※余長D'は梁有効成とし、構造計算によって確認すれば、それによっても良い。
・梁主筋は原則として通し筋とするが、拘束筋をあばら筋と同径同ピッチで落とし込む。

梁成が異なる場合

4-3 あばら筋副あばら筋

・第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割り付ける。
・あばら筋の加工は下図①に夜。
②③⑤⑥⑧⑨は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
・⑨⑩は梁成の大きい場合。
・⑧はピッチ2Pで交互配置とする。
・溶接継手は帯筋の項を参照のこと。

※ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さL2とする。

⑩は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。
※柱面より梁成の範囲は、180°フック又は135°フックが望ましい。

備考

日新設計株式会社
三重県大伊賀郡御幸1-519号 一般建築士 No.205708 出口基樹

代 表

一般建築士 No.205708 出口基樹
一般建築士 No.205708 出口基樹
設計担当
一般建築士 No.10048 伊藤大智

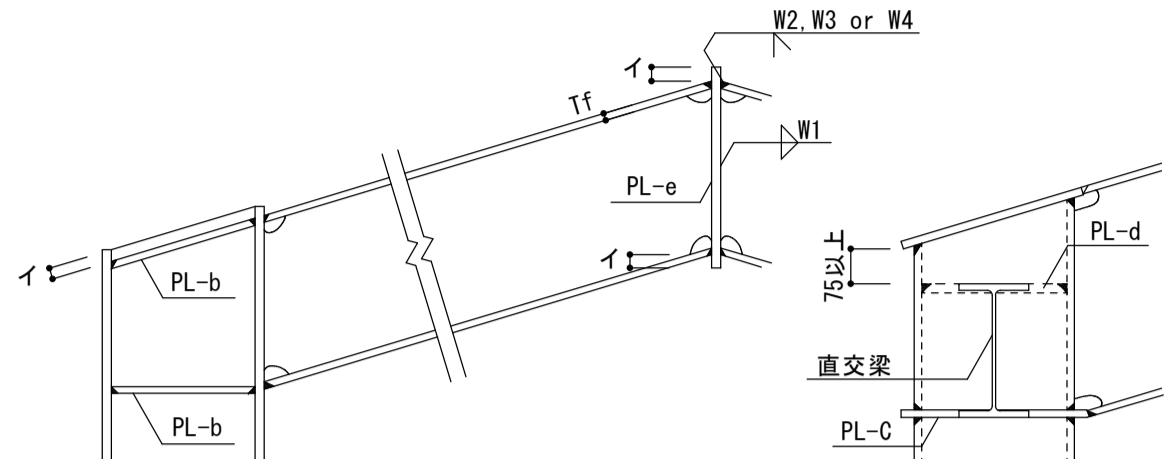
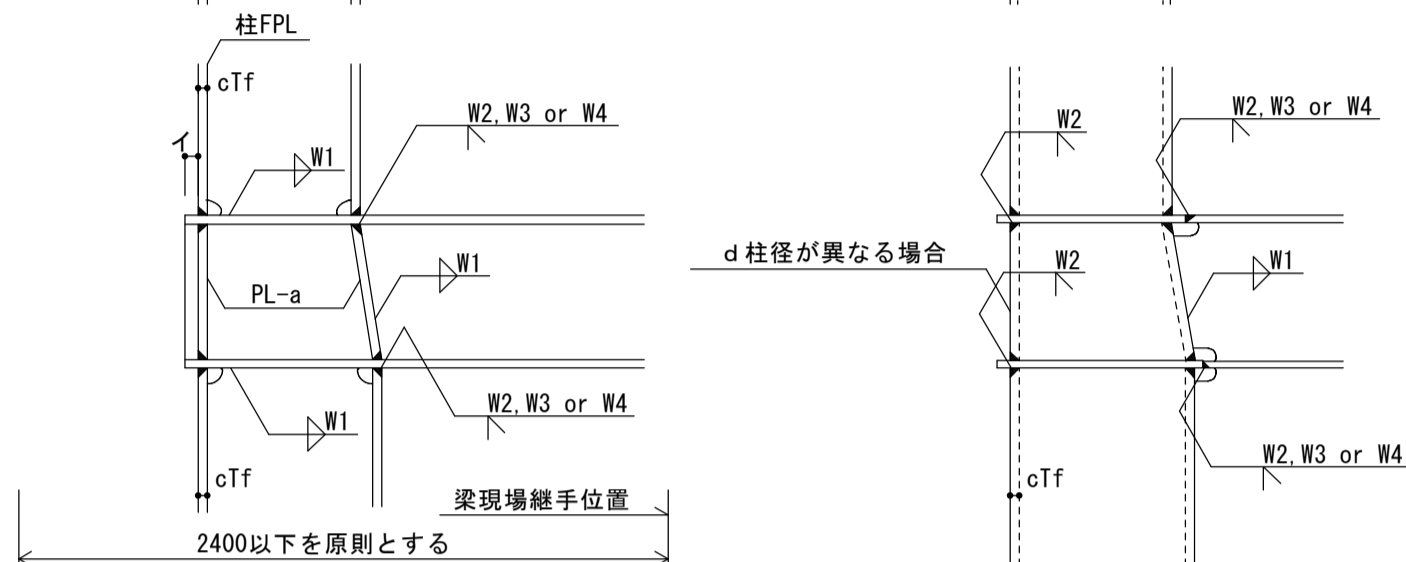
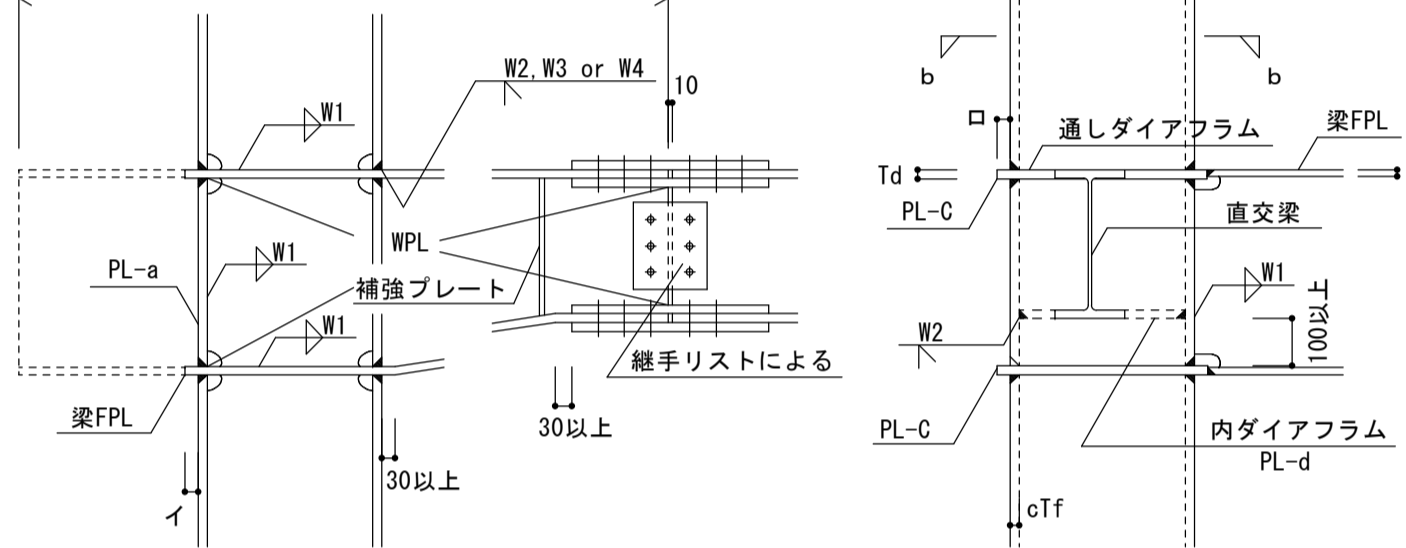
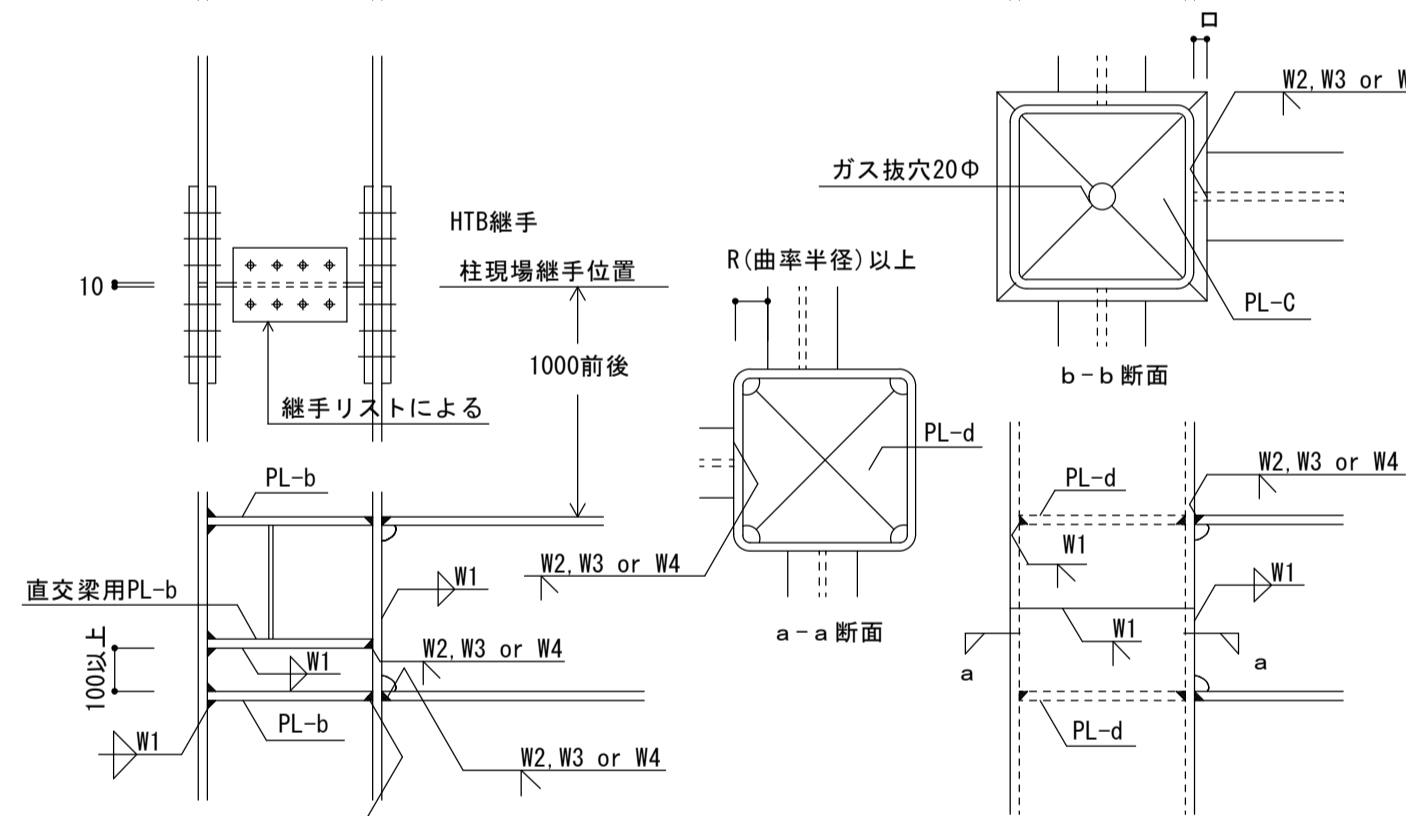
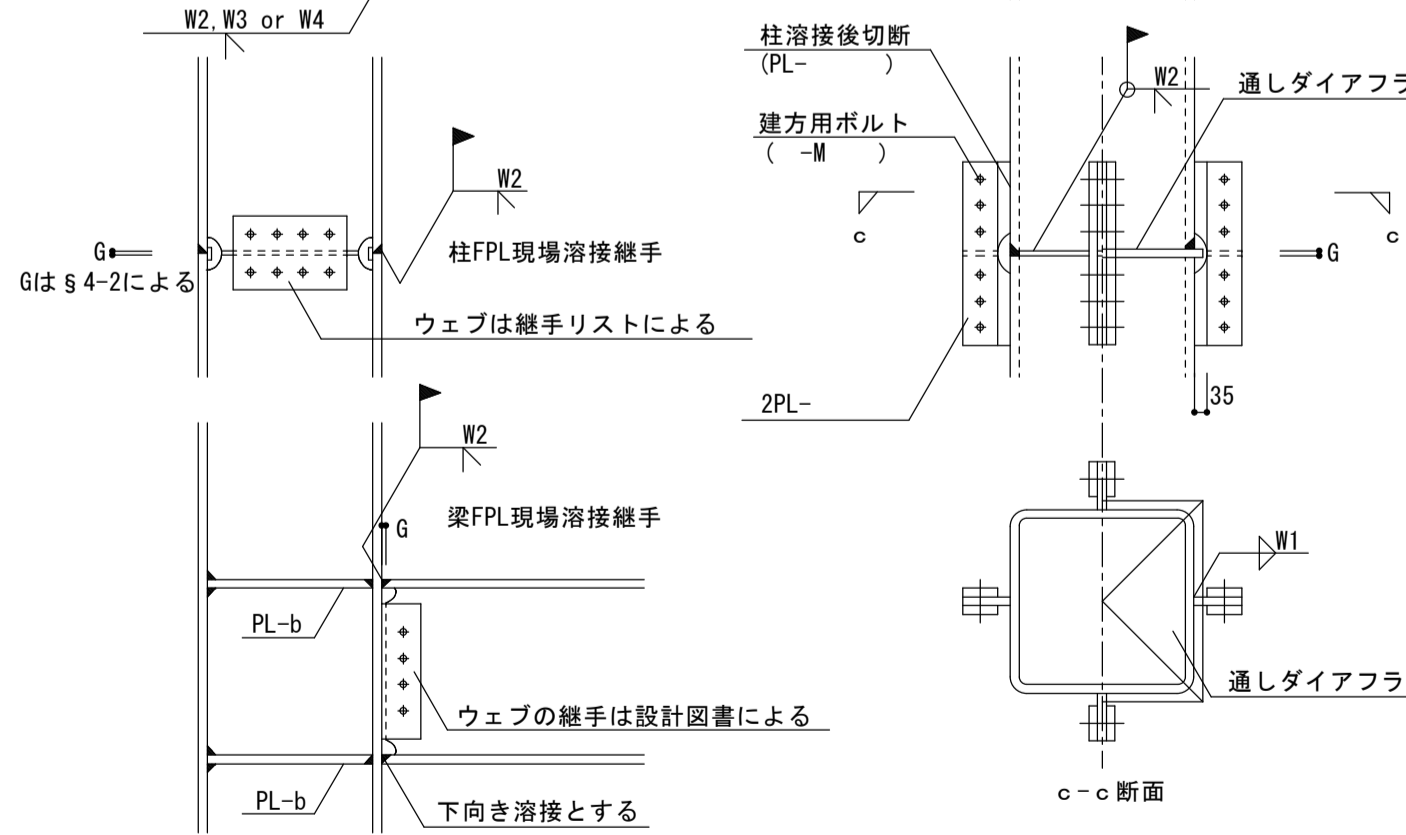
DATE

2025 - 10
NO SCALE

S - 02

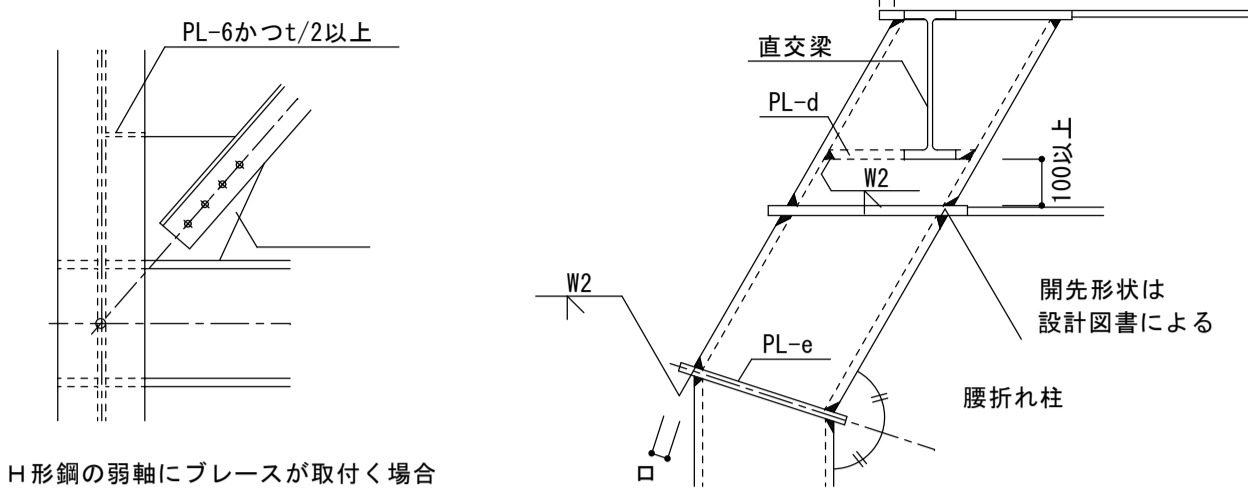
鉄 骨 工 作 標 準 図 (2)

§ 6 柱梁接合部及び継手

6-1
勾配屋根6-2
梁通し6-3
仕口と継手6-4
柱通し6-5
現場溶接継手

柱がH形鋼の場合

柱が角形鋼管の場合

6-6
そ の 他

柱がH形鋼の場合

柱が角形鋼管の場合

1) パネルゾーンのPLの量さ

1. PL-a (鉛直スチフナ)
2. PL-b (水平スチフナ)
3. PL-c (通しダイヤフラム)
4. PL-d (内ダイヤフラム)
5. PL-e (折れ曲がり部)

上下柱のFPLの厚い方より1サイズUP以上
仕口部に集結する梁の最大FPLより1サイズUP以上
仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上かつ柱のFPL以上
仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上
梁(柱)のFPLより1サイズUP以上

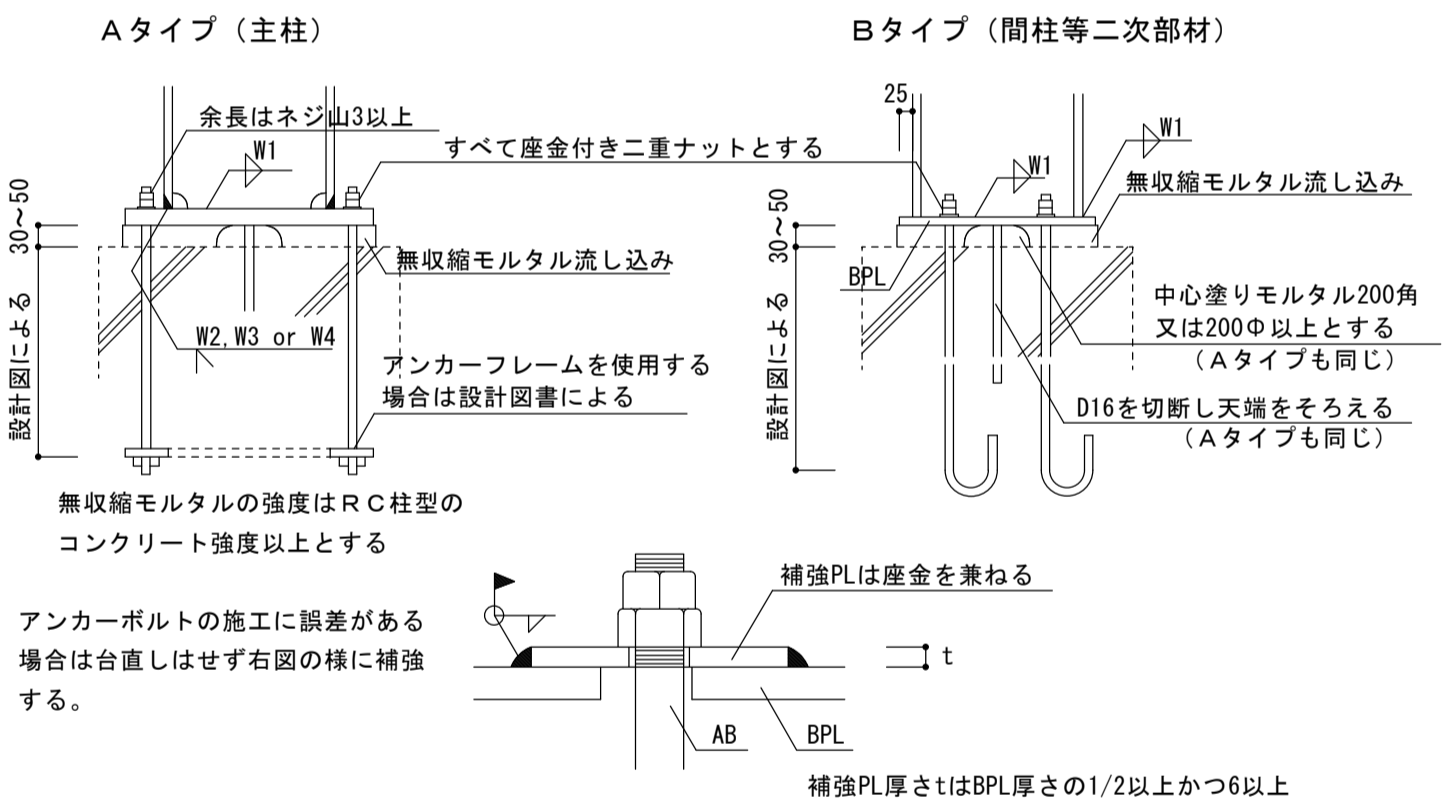
2) 出寸法

- イ 25mmかつcTf以上
ロ cTf≦25の場合 25
ハ cTf≧28の場合 30

3) 注記

1. ダイヤフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きいほうに同じとし、材質は上の方の1ランク上質とする。
2. d (6-2項) 上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。
3. ハンチ部で、FPLを折り曲げる場合は、 $R \geq 10Tf$ とし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。
4. ダイヤフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイヤフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
5. 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承諾を得、養生に十分配慮して行なう。

§ 7 柱 脚

7-1
一 般 柱 脚

§ 8 壁面ブレース

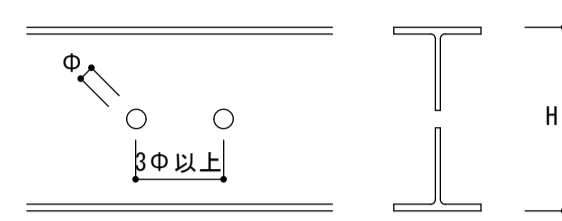
8-1
ブレース
リスト

1. GPLの最小幅Leが確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
2. 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共JIS規格品を使用する。
3. 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

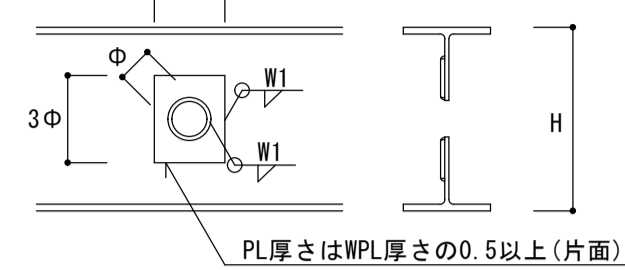
§ 9 その他

9-1
貫通補強

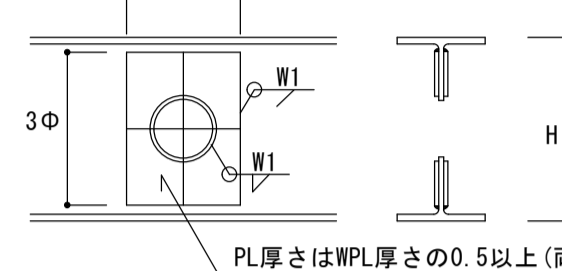
Aタイプ (Φ≦0.1H)



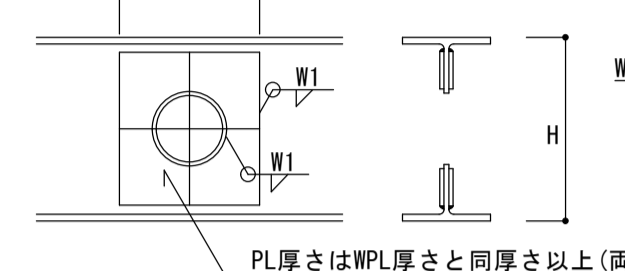
Bタイプ (0.1H<Φ≦0.2H)



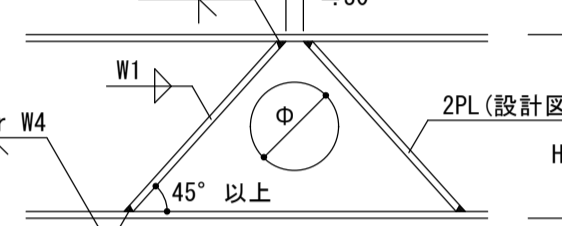
Cタイプ (0.2H<Φ≦0.28H)



Dタイプ (0.28H<Φ≦0.4H)

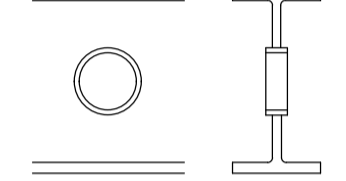


Eタイプ (0.4H<Φ≦0.5H)

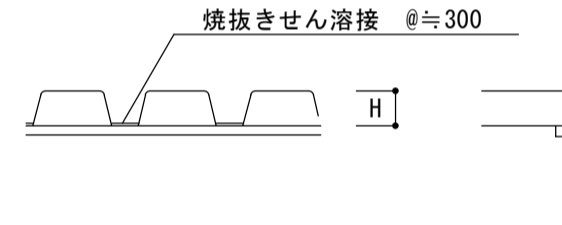


Fタイプ

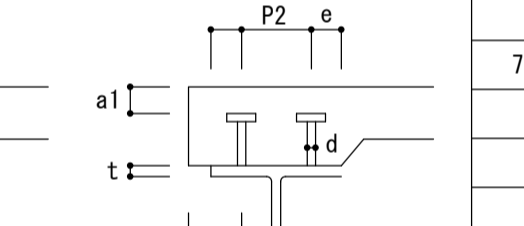
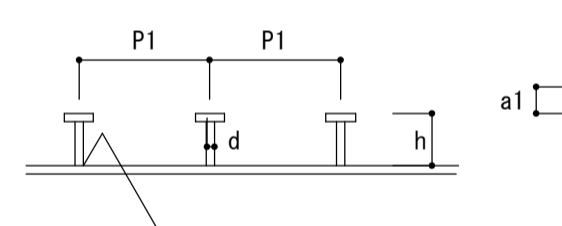
既製品(評定品)を用いた場合



1. 特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径(Φ)は0.5H以下とし、そのピッチは3.0Φ以上とする。(これを満足できない場合は設計者の指示による。)
2. 貫通孔を設ける範囲は右図の黒部分を実原則とする。
3. 貫通孔が多くある場合はWPLを厚くした(WPL+補強PL)BHとする。

9-2
デッキ
プレート

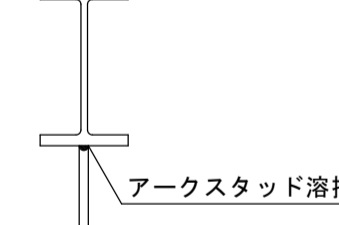
・合成スラブの場合はメーカー仕様による。

9-3
スタッド
ジベル

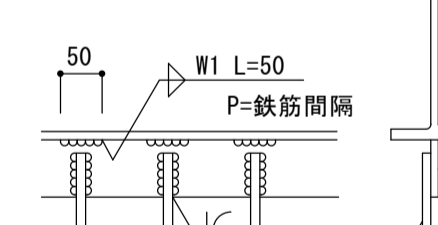
h, P1, P2設計図による

9-4
壁筋の溶接

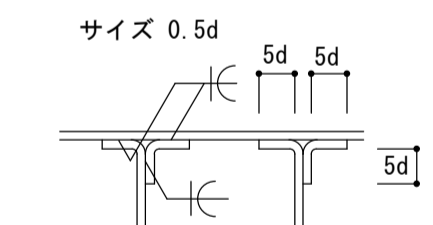
Aタイプ (標準)



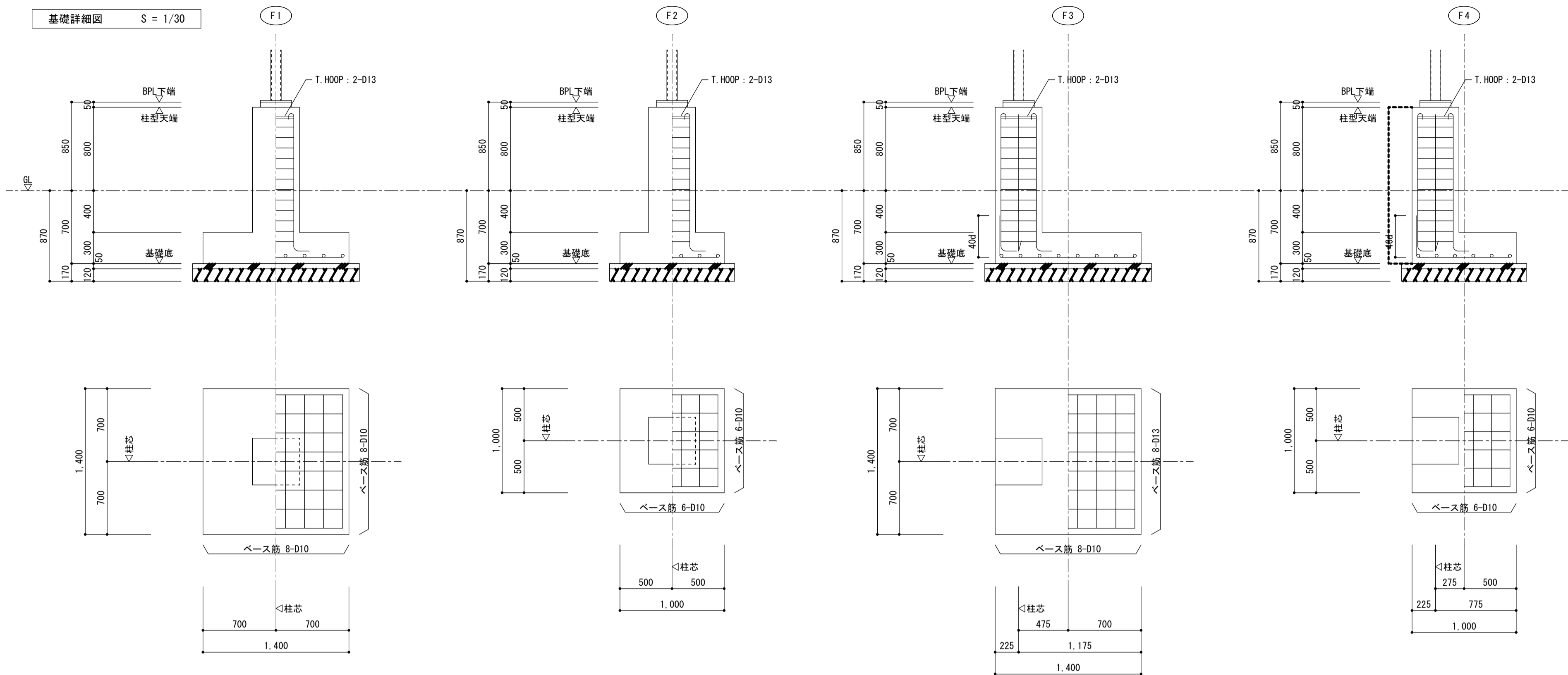
Bタイプ (軽微なRC壁の場合)



Cタイプ (ブロック壁の場合)



基礎詳細図 S = 1/30

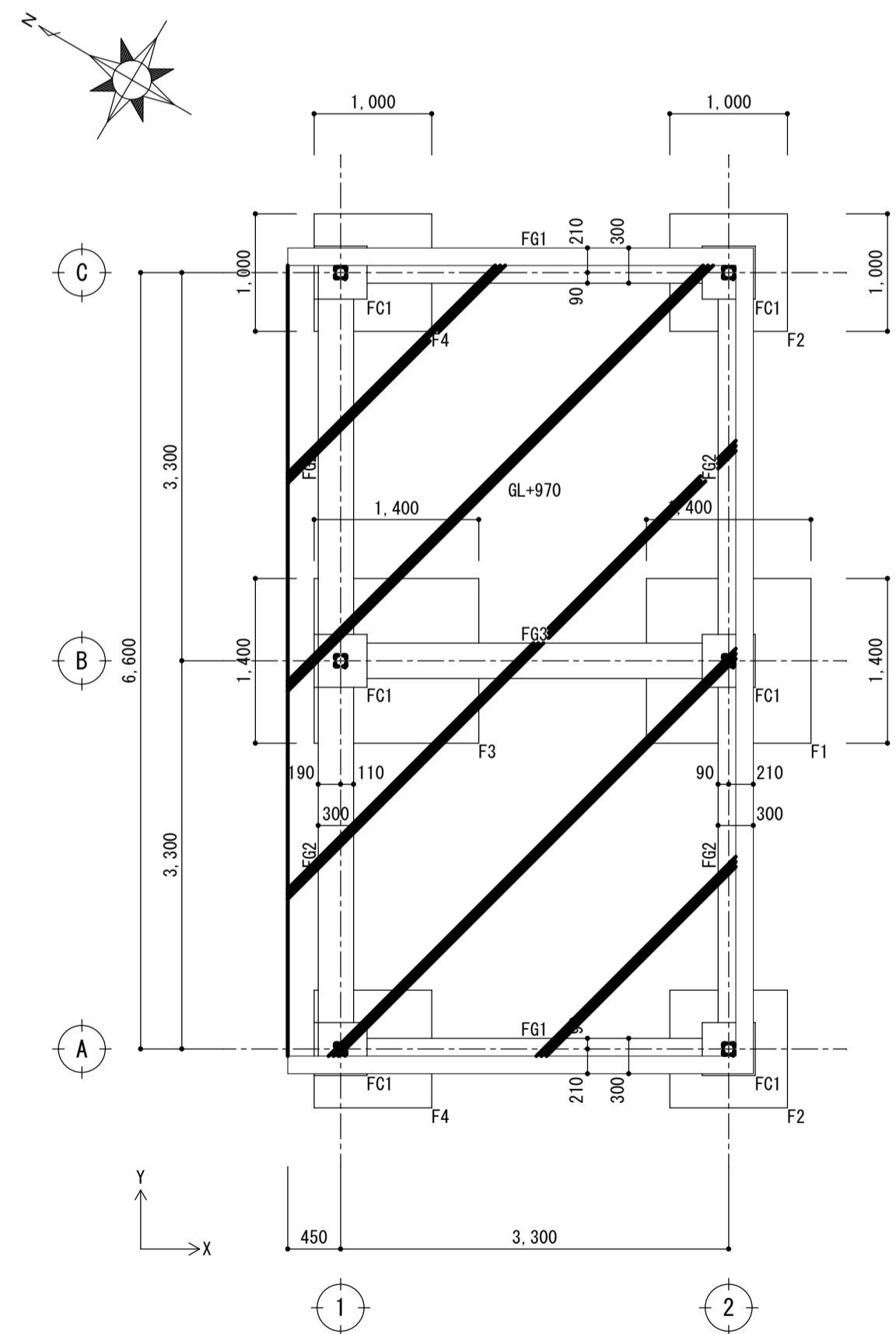


柱断面リスト S=1/30

符 号	FC1
断面	
主筋	8-D16
フープ	□-D10#100
備 考	T. HOOP 2-D13

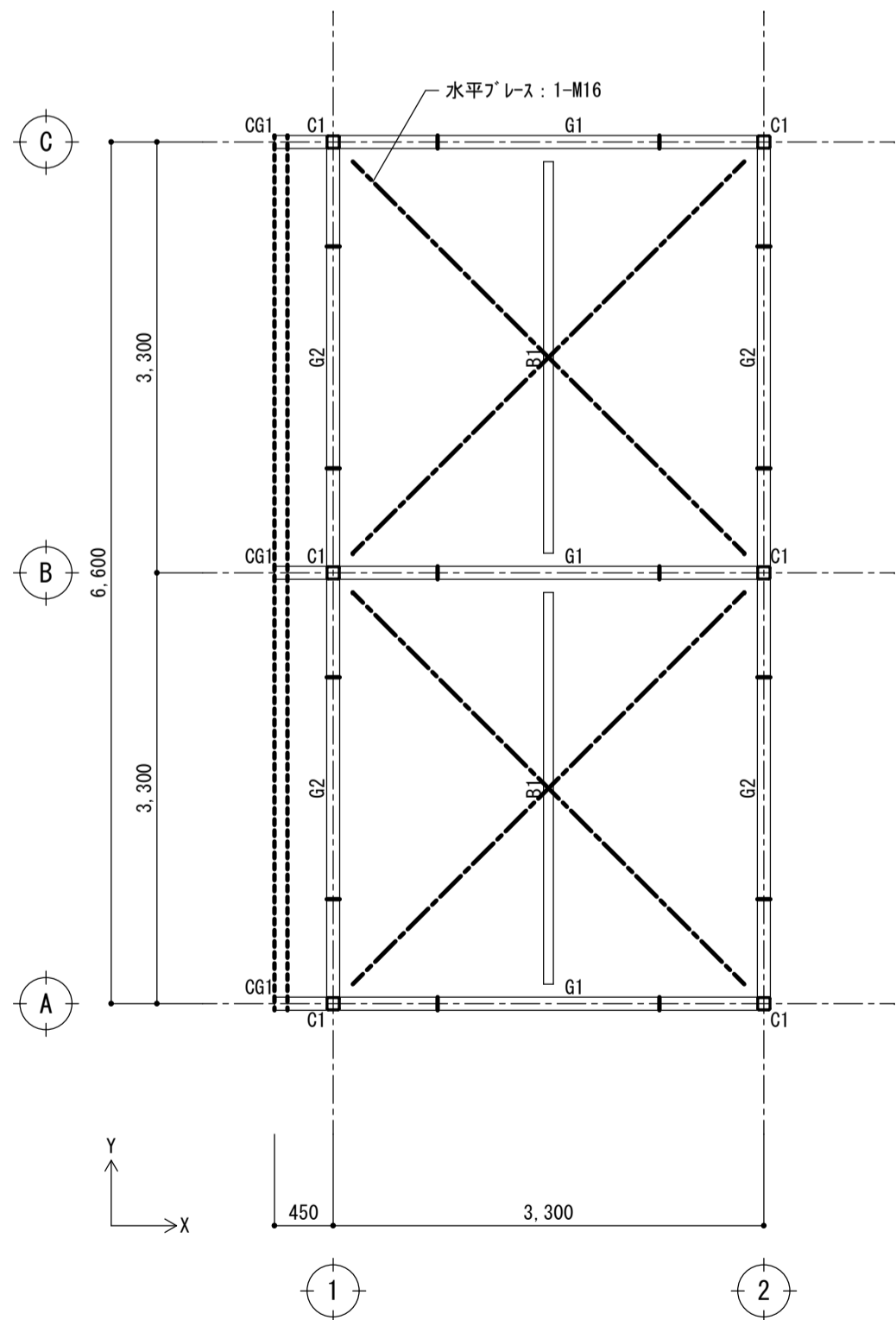
地中梁断面リスト S=1/30

符 号	F61	F62	F63
断面			
上端筋	2-D16	2-D16	3-D19
下端筋	2-D16	2-D16	2-D19
スターラップ	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200
腹筋	—	—	—
巾止め筋	—	—	—



基礎伏図 S = 1/50

土間コンクリート t=120
鉄筋 : D13#200 シタノメ
#7 引筋 t=0.15
砕石 t=100 (転圧)



梁伏図 S = 1/50

部 材 リ ス ト			備考
C1	□-100x100x6	(STKR400)	柱脚リスト
G1	H-200x100x5.5x8	(SS400)	
G2	H-200x100x5.5x8	(SS400)	
G3	H-200x100x5.5x8	(SS400)	
B1	H-150x75x5x7	(SS400)	
水平ブレース	1-M16	(SS400)	
コナ剛縁	C-100x50x20x2.3 #600	(SS400)	GPL-4.5 BOLT 2-M12
コーナー剛縁	□-100x100x2.3	(SS400)	L-100x75x7

柱脚リスト S=1/30

部材符号及び呼び	C1	□-100x100x6
断面		
ベースプレート	B. PL-16x300x300	SS400
リブプレート	—	—
アンカーボルト	A. BOLT 4-M16 L=400 WN	SS400

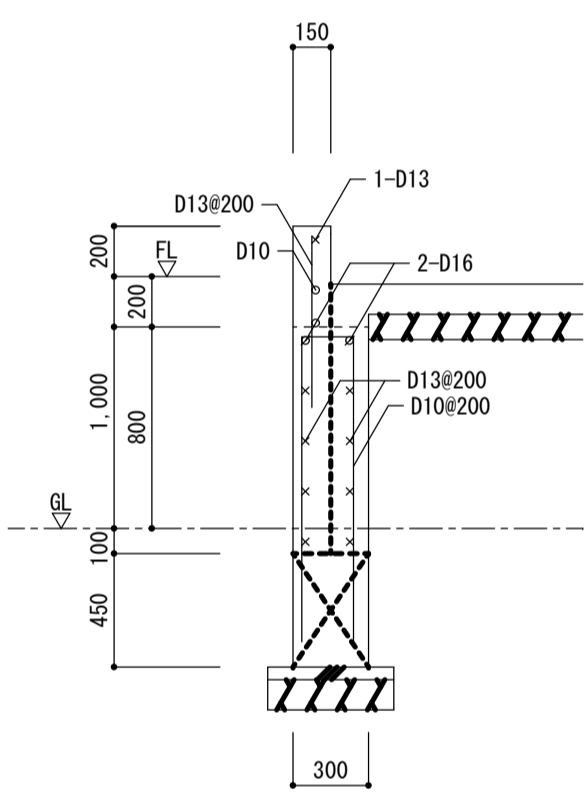
大梁継手リスト S=1/30

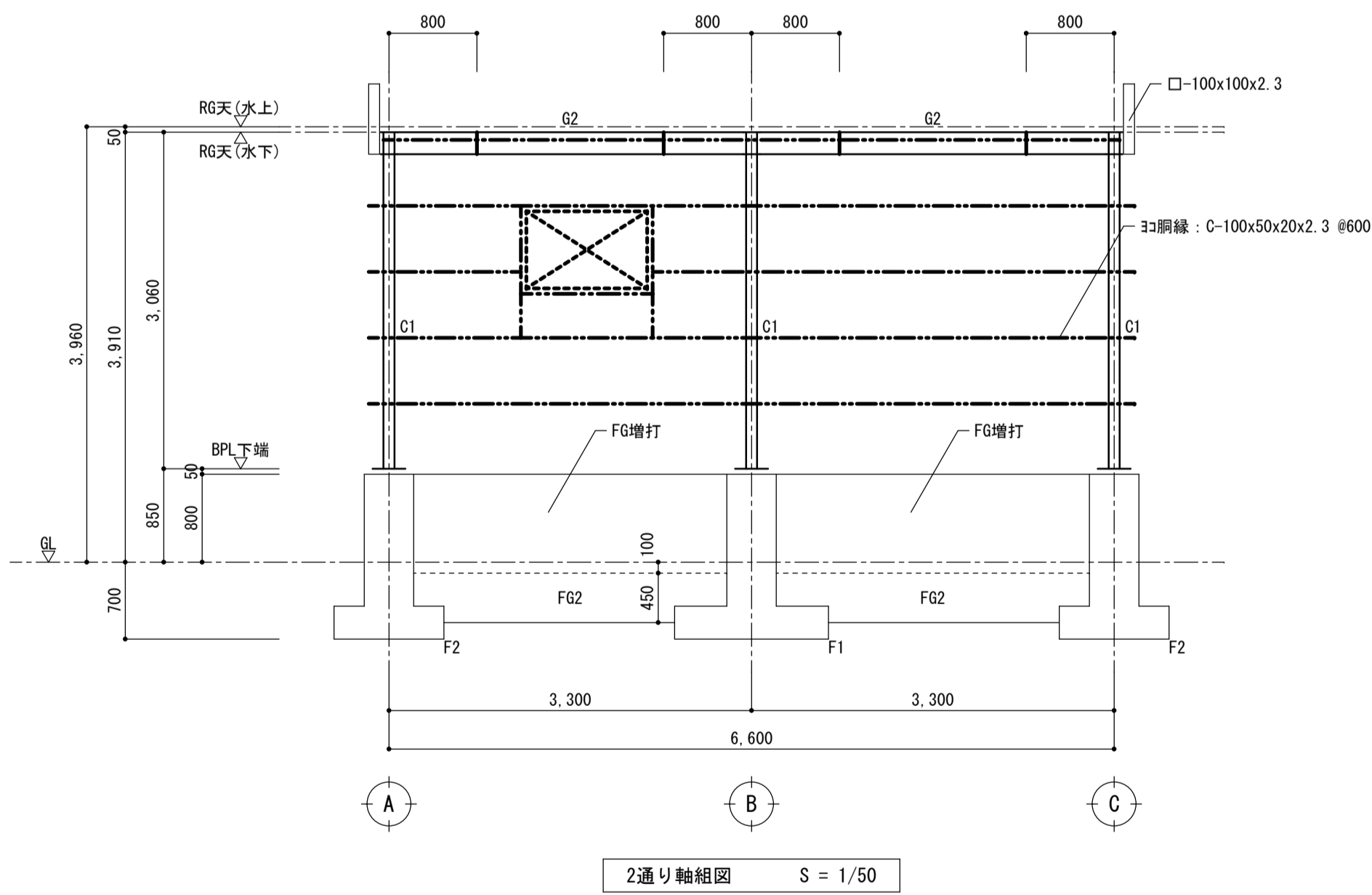
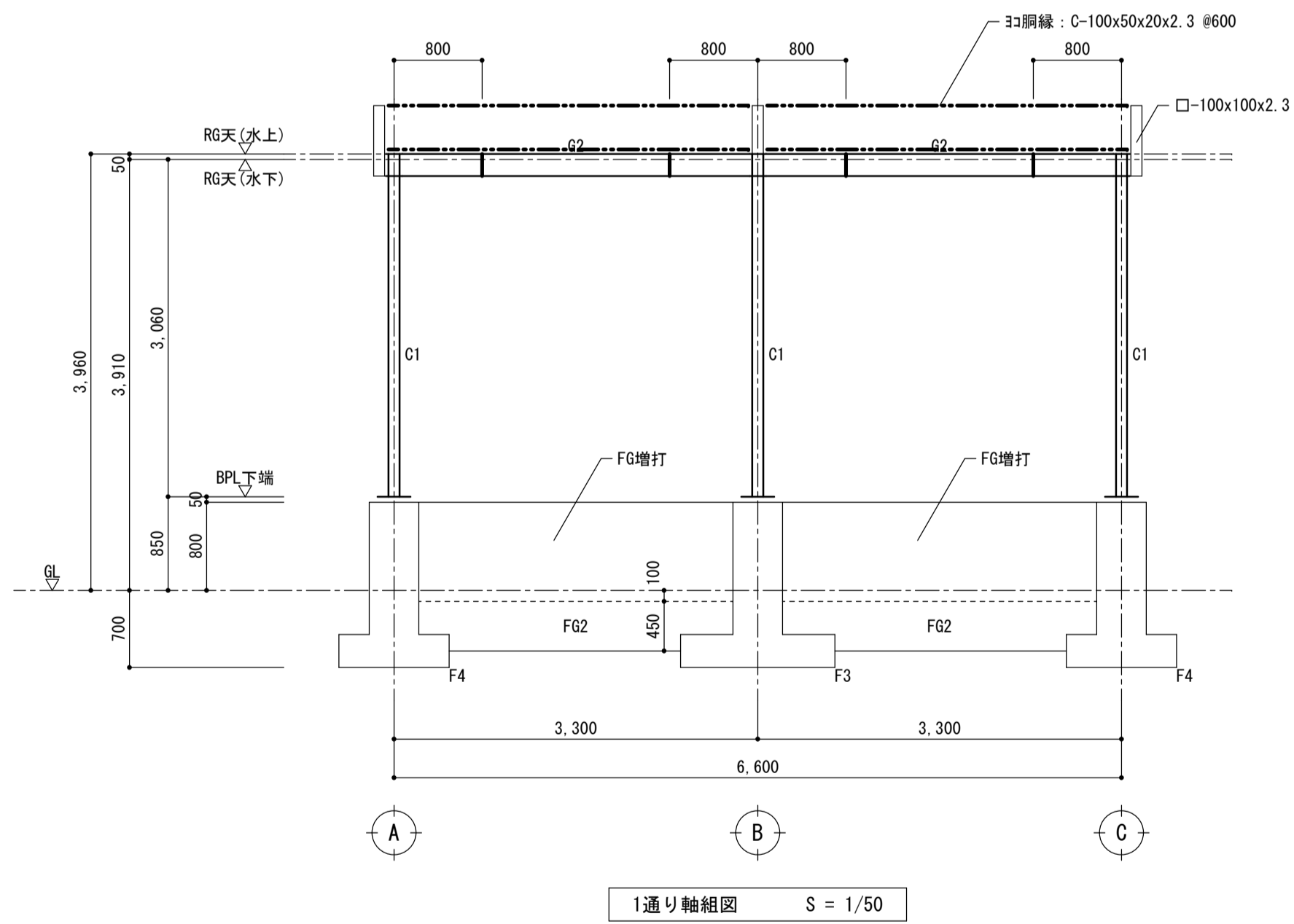
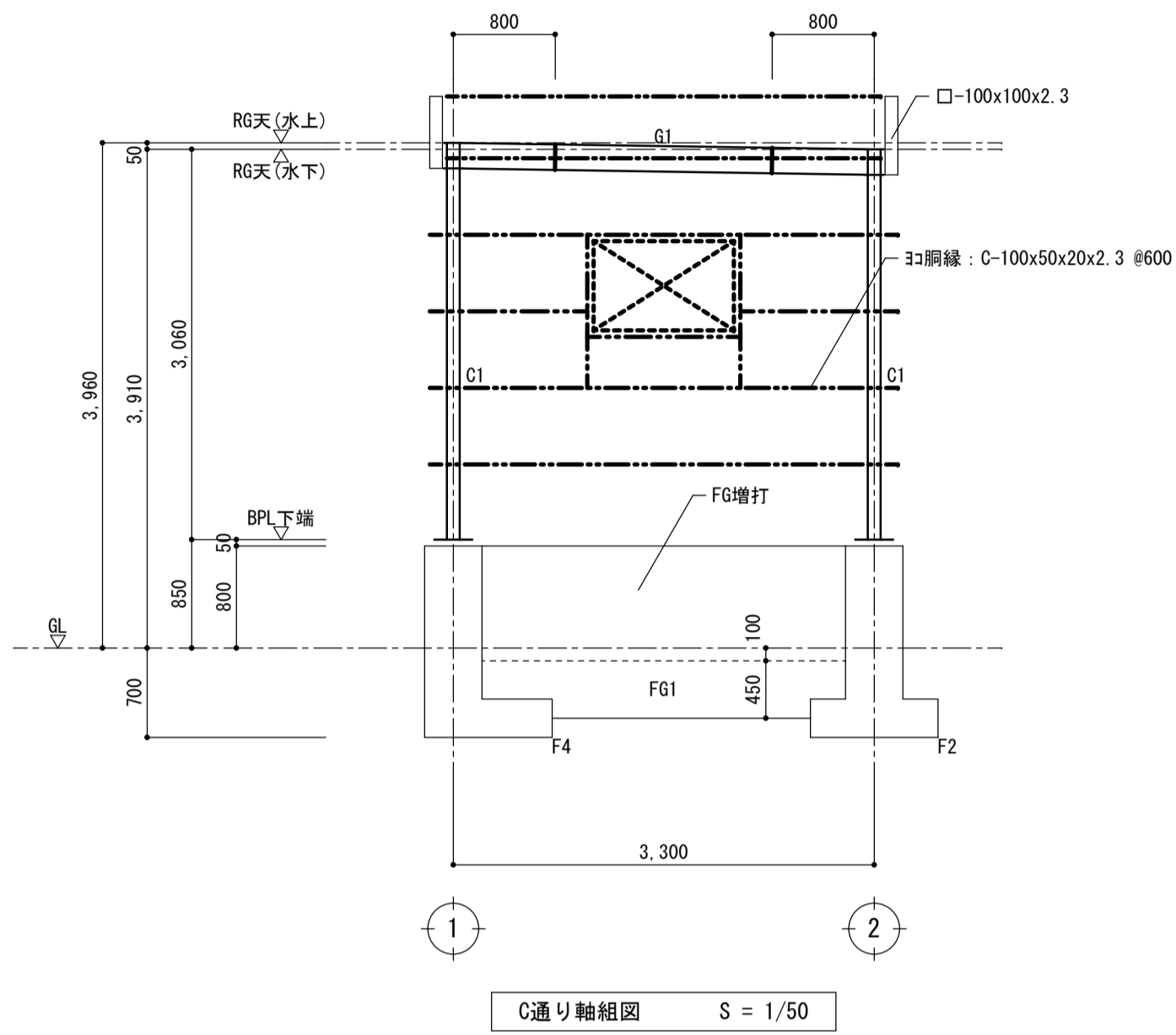
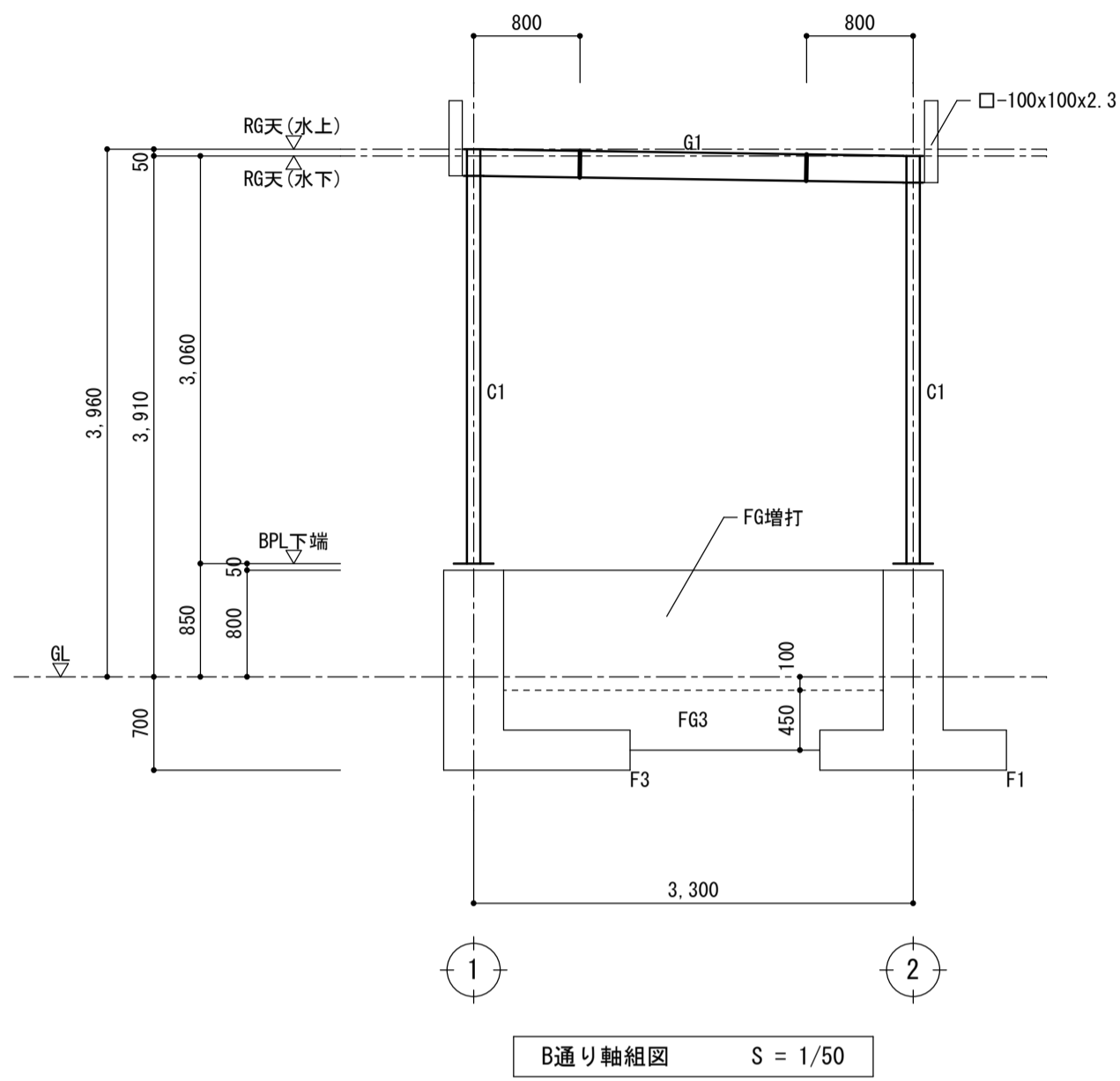
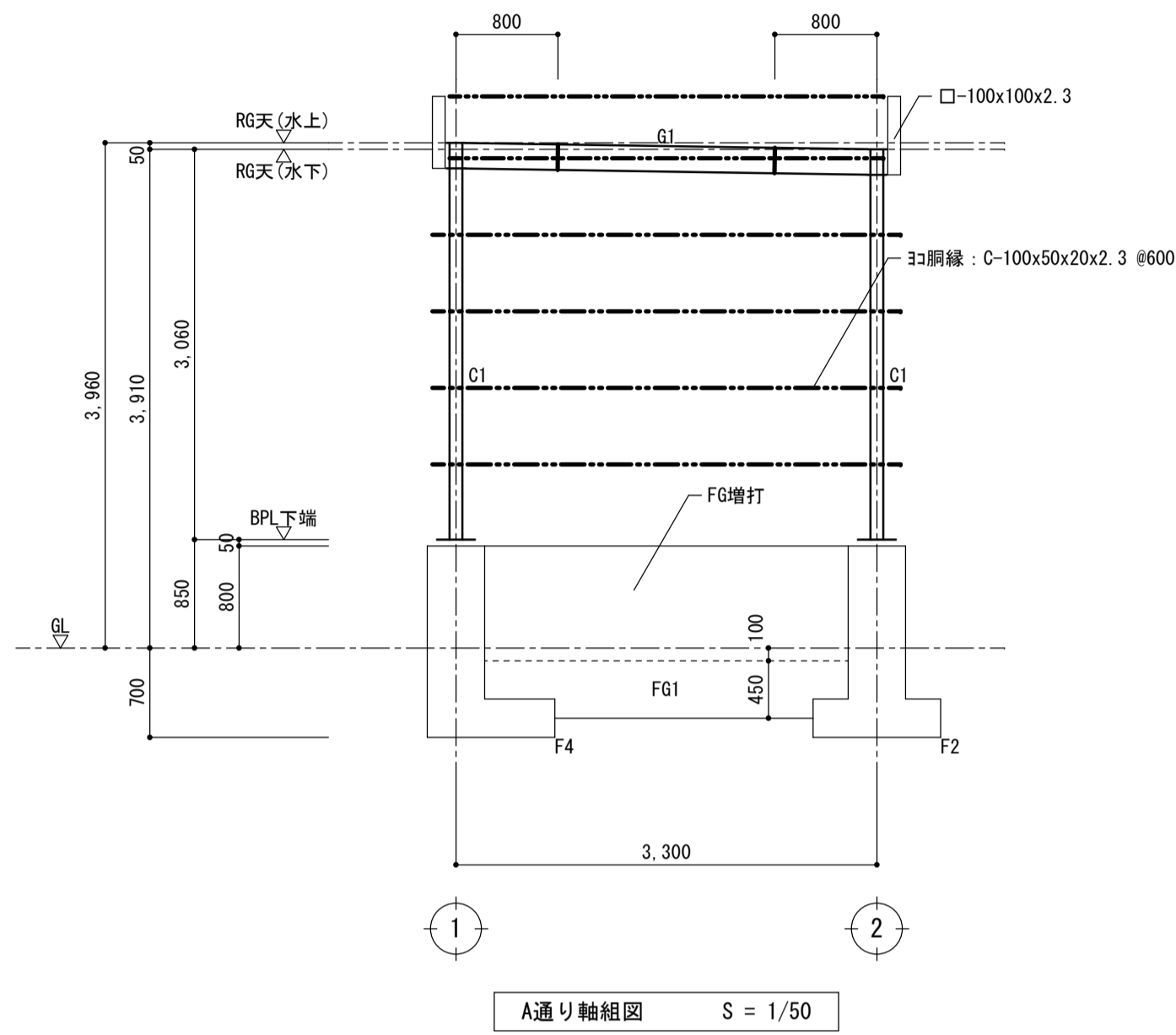
記 号	部 材	G1, G2	H-200×100×5.5×8
大 梁			
フランジ	2PL-290×100×16 HTB 16-M16		
ウェブ	2PL-170×140×6 HTB 4-M16		

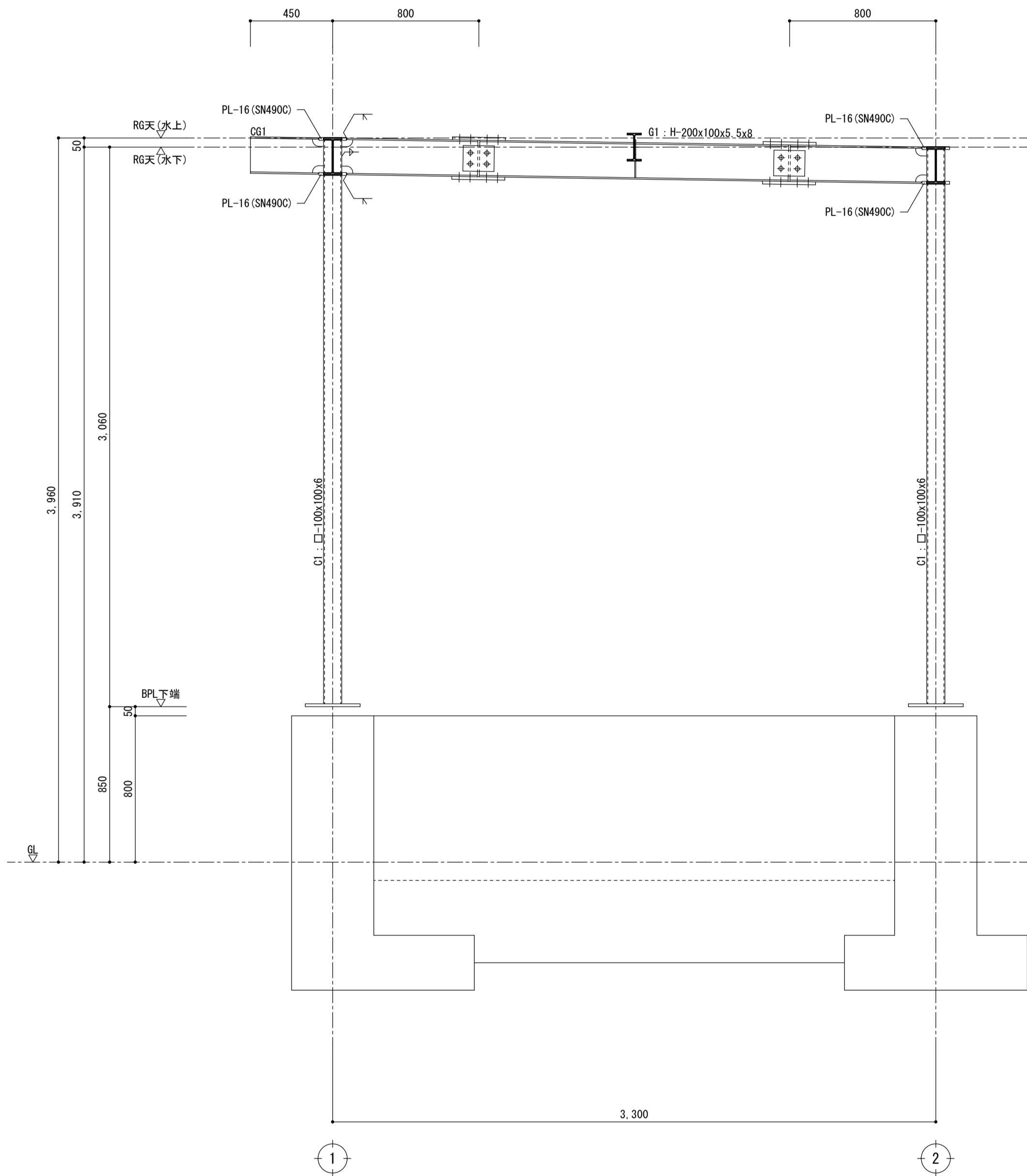
小梁継手リスト S=1/30

記 号	部 材	B1	H-150×75×5×7	水平ブレース 1-M16
小梁・その他				
ガセットプレート	GPL-6			GPL-9 FB-6x50x160
ボルト	HTB 2-M16			HTB 1-M16

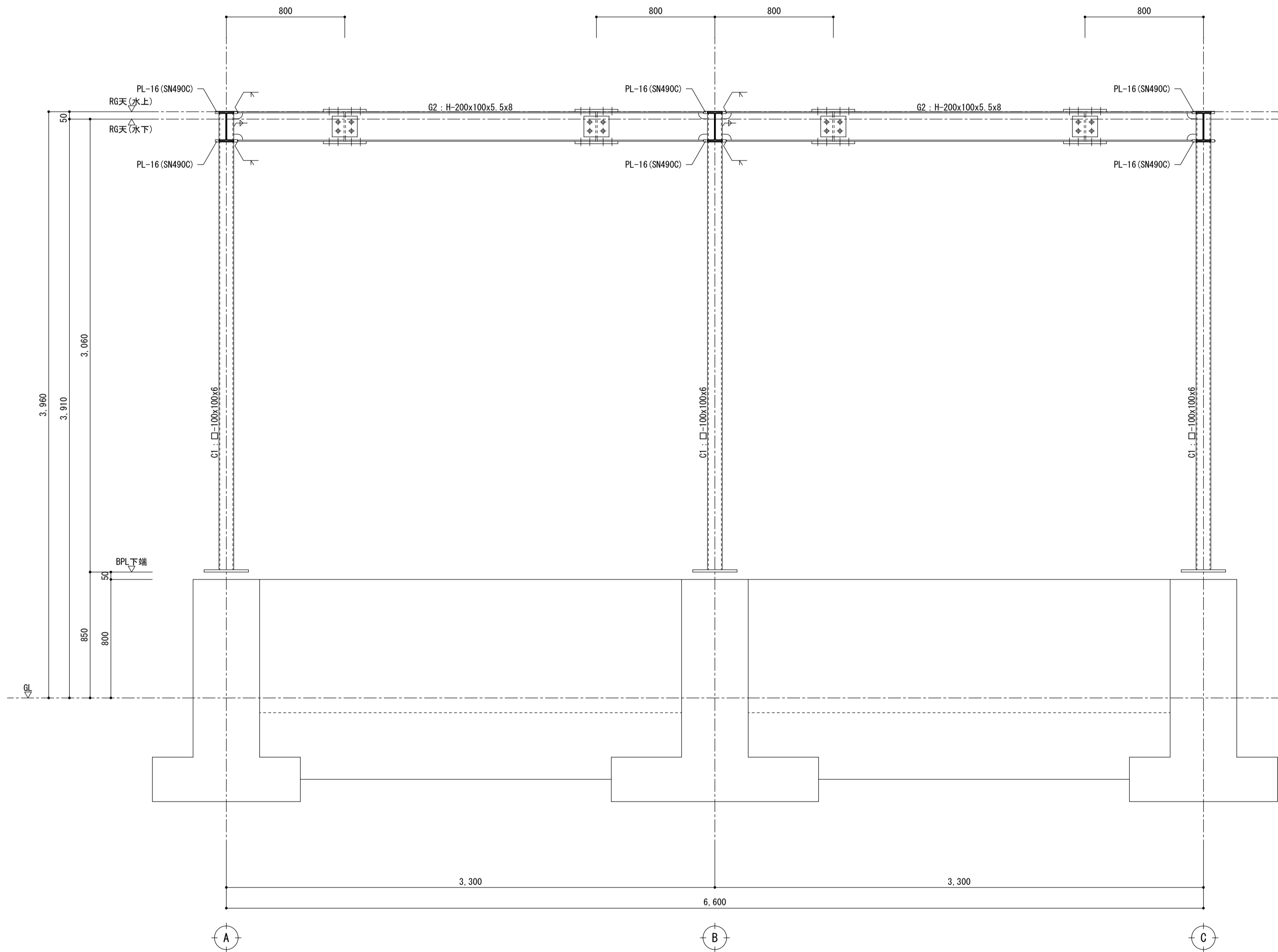
F6増打配筋図 S = 1/30



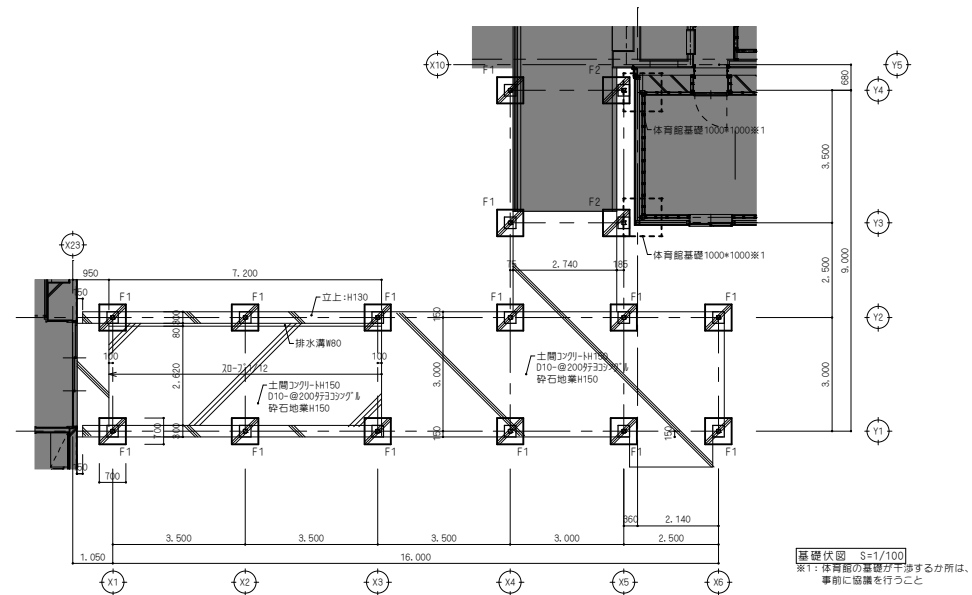
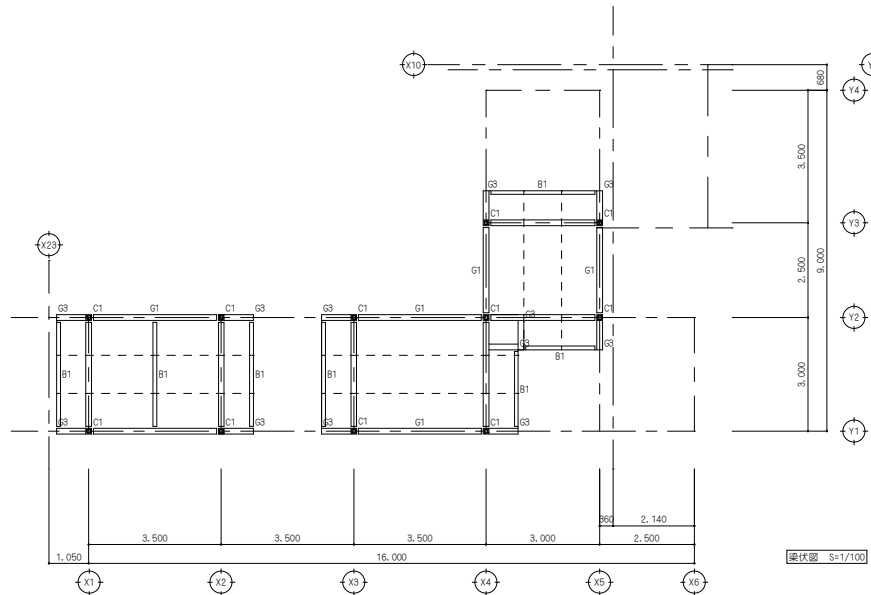
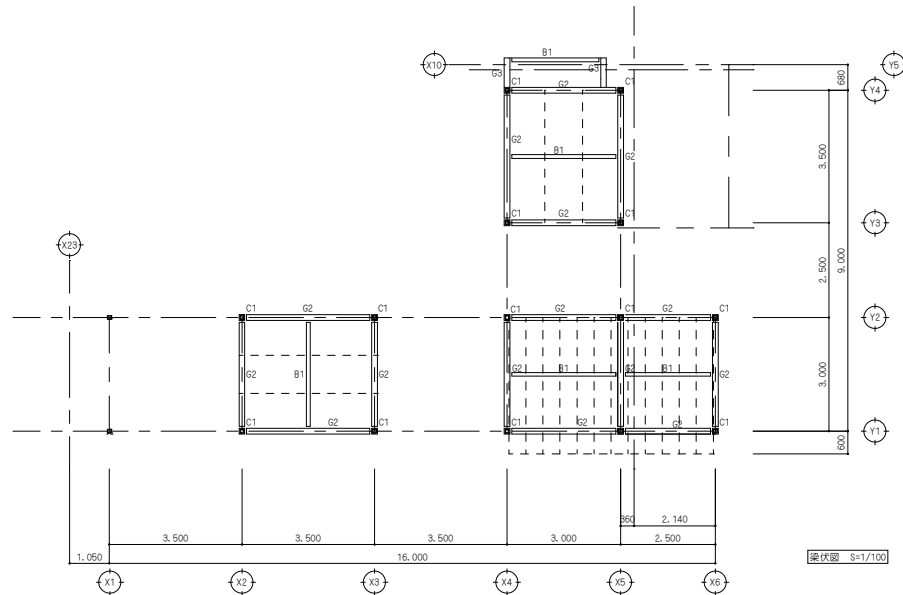




C通り鉄骨詳細図 S = 1/20



1通り鉄骨詳細図 S = 1/20



凡例			
記号	寸法	材質	備考
C1	□-100×6.0	STKR400	
G1	H-150×200×6×9	SS400	
G2	H-150×150×7×10	SS400	
G3	H-150×150×7×10	SS400	
B1	H-100×100×6×8	SS400	
—	C-100×50×20×2.3		

